

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 29 年 6 月 8 日現在

機関番号：32636

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2013～2016

課題番号：25780488

研究課題名(和文) 現代プラグマティズムと民主主義の学習 進歩主義学校の再構築

研究課題名(英文) Contemporary Pragmatism and Democratic Learning: Reconstruction to Progressivism

研究代表者

上野 正道 (Ueno, Masamichi)

大東文化大学・文学部・教授

研究者番号：50421277

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,100,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、現代プラグマティズムと民主主義の教育を、デューイ的な進歩主義学校の再解釈によって考察し、民主主義の学習に立脚した学校改革の方略を明らかにした。特に、アメリカや日本の先行研究にとどまらず、ドイツ、イタリア、イギリス、オランダ、中国などで活発に展開されているプラグマティズムと民主主義の教育の理論と実践について研究した。これによって、活動的、協働的、相互行為的なコミュニティの学習を基盤にした進歩主義の学校改革の哲学的・実践的・政策的な課題と意義を考察した。

研究成果の概要(英文)：The aim of this research is to consider contemporary pragmatism and democratic education by reinterpreting Deweyan progressivism and school reform from the perspective of democratic learning. In particular, theories and practices of pragmatism and democratic education that were developed in Germany, Italy, United Kingdom, Netherlands and China as well as in the U.S. and Japan were discussed. Through this approach, this research suggests philosophical, practical and political issues and significance of the progressive educational reform based on active, collaborative and interactive learning in communities.

研究分野：教育学

キーワード：プラグマティズム 民主主義 学校改革 進歩主義 アート コミュニティ 学習

1. 研究開始当初の背景

従来、デューイのプラグマティズムと民主主義に関する研究は、日本やアメリカ国内で展開される先行研究に焦点化して検討することが多く、また、プラグマティズムの主題を学校の学習過程に結び付けて考察する視点が希薄であったということが指摘できる。一方で、今日、デューイとプラグマティズムの研究は、アメリカ、ヨーロッパ、アジアをはじめ、世界規模で高度な学術水準の研究が蓄積されている。本研究の背景にあるのは、現在、国際舞台で切望されている民主主義教育の主題に理論的、実践的な観点から接近し、それを教育学における先端かつ高度な学術水準の研究へと卓越させる課題である。

2. 研究の目的

本研究では、現代プラグマティズムと民主主義の教育を、デューイ的な進歩主義学校の再解釈によって考察し、民主主義の学習に立脚した学校改革の方略を明らかにした。特に、アメリカや日本の先行研究にとどまらず、ドイツ、イタリア、イギリス、オランダ、中国などで活発に展開されているプラグマティズムと民主主義の学習論を考察し、進歩主義学校を現代の新自由主義改革のオルタナティブな系譜として位置付ける。活動的、協働的、相互行為的な民主主義教育のプログラム開発を探究し、プラグマティズムと進歩主義の学校の哲学的・実践的・政策的な意義を考察する。本研究は、これを最先端かつ高度で卓越した学術水準において遂行し、民主主義教育の発展に積極的な貢献を果たすことを目的とした。

3. 研究の方法

本研究は、現代プラグマティズムと民主主義の学習を進歩主義学校の再検討によって考察し、民主主義を基盤にした学校の展望を明らかにする方法を採用する。特に、ヨーロッパや中国などで展開されているデューイ研究を導入して、プラグマティズムに根差した民

主主義教育の研究を推進する。現代プラグマティズムの哲学は、人と人との協働的な相互行為が創出する信頼・互恵性・ネットワークを民主主義の成立基盤に置く点で注目に値する。本研究は、進歩主義学校の哲学・実践・政策を検討することによって、市場・選択・競争を基軸とする新自由主義改革に対する批判的・発展的視座を獲得することとする。

4. 研究成果

本研究の成果は、以下の3点にある。

(1) プラグマティズムと民主主義の学習の基礎的・概念的なフレームワークを構築した点である。本研究では、デューイの民主主義を人と人との間で網の目状に生成される相互行為の关系的・互恵的な「生き方の問題」と定義し、民主主義教育を学校の制度的な条件整備として捉えるのではなく、授業の相互構成的な学習過程によって生成されるものと解釈する。ヨーロッパや中国などで行われているプラグマティズムの学習研究を積極的に参照して、従来、日本やアメリカ国内で蓄積されてきたプラグマティズム研究に再検討を迫ると同時に、民主主義と教育を架橋し節合する概念的パラダイムの転換を推進した。

(2) 進歩主義の学校政策を分析し、民主主義教育の実際を探究した点である。本研究は、プラグマティズムに立脚した学校の具体的なカリキュラムや教育方法を検討した。

(3) プラグマティズムと民主主義の学習を新自由主義の再構成の角度から考察し、進歩主義学校の哲学的・実践的・政策的な意義を解明する点。今日、プラグマティズムは、政治学、哲学、社会学、心理学などで再評価が行われる一方で、それを民主主義の学習へとつなげる視点は必ずしも充分ではない。本研究は、プラグマティズムと民主主義を架橋し節合する試みとして進歩主義学校の研究を実施し、従来の研究の空白を埋めると同時に、趨勢的な新自由主義改革のオルタナティブを構成する学校の哲学的・実践的・政策的な研

究を行う点において、教育学の先端的な研究方法の開拓に積極的な貢献を果たし、高度で卓越的な研究潮流の推進役を担った。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計4件)

上野正道「プロジェクト論に基づくカリキュラム・デザイン アメリカのヘルバルト主義と進歩主義教育」『近代教育フォーラム』第25号、教育思想史学会(査読有) 2016、pp.39-45
Masamichi Ueno “Democratic Education and School Reform: Creating Hope for Learning Beyond Cynicism,” 『人文科学』第21号、大東文化大学人文科学研究所(査読なし) 2016、pp.61-81

Masamichi Ueno (translated by Stefano Oliverio) “Educazione democratica e riforma della scuola in Giappone nell’era della globalizzazione: alimentare la speranza nell’apprendimento al di là del cinismo,” Civitas Educationis, Education, Politics and Culture, vol.5, no.2, (査読有) 2016, pp.89-105.

上野正道「デューイと中国 デモクラシーの教育をめぐる」『近代教育フォーラム』第23号、教育思想史学会(査読有) 2014、pp.109-118

[学会発表](計5件)

Masamichi Ueno, Yasunori Kashiwagi, Kayo Fujii, Taku Murayama, “Manabi, Learning and Bildung in Schools: Translation of Educational Discourse and Its Understanding,” The 15th Biennial World-Conference of the International Network of

Philosophers of Education, University of Warsaw (Poland), August 18, 2016.

Masamichi Ueno, “Translating Democracy in the Education System Context: Encounter with Dewey’s Theory in Japan,” Stefano Oliverio, Bianca Thoillez, Masamichi Ueno, “Translating Education into Democratic Terms: The Encounter with Dewey in Three European and Asian Settings,” The 15th Biennial World-Conference of the International Network of Philosophers of Education, University of Warsaw (Poland), August 17, 2016.

上野正道「グローバル時代のアート教育と公共性」関係性の教育学会第13回年次大会、大東文化大学、東京都板橋区、2015年7月12日

上野正道「グローバル時代の公共性の変容と教育の構想」日本子育て学会学術フォーラム「教育とケアのために 学際的な支援への招待」日本子育て学会第6回大会、秋草学園短期大学、埼玉県狭山市、2014年11月23日

Masamichi Ueno, “Designing Democratic Education and Collaborating Learning in Japan in the Global Era,” Maura Striano, Stefano Oliverio, Rosa M. Calcaterra, Larry Hickman, Masamichi Ueno “Can We Really Educate for Democracy?” The 14th Biennial World-Conference of the International Network of Philosophers of Education, University of Calabria, Cosenza (Italy), August 23, 2014.

[図書](計3件)

Masamichi Ueno, *Democratic Education and the Public Sphere: Towards John Dewey's Theory of Aesthetic Experience*, Milton Park, Abingdon, Oxon; New York: Routledge, Taylor & Francis Group, 2015, pp.1-182.

上野正道「グローバル時代の学校改革を展望する 東アジアの中の日本」、上野正道、北田佳子、申智媛、齊藤英介編『東アジアの未来をひらく学校改革 展望と挑戦』北大路書房、2014、pp.1-26

上野正道『民主主義への教育 学びのシニシズムを超えて』東京大学出版会、2013、pp.1-279

6 . 研究組織

(1) 研究代表者

上野正道 (Ueno, Masamichi)
大東文化大学・文学部・教授
研究者番号 : 5 0 4 2 1 2 7 7